

# 知内町小谷石豪雨災害から 50 年 避難行動訓練ワークショップ開催

## 1 はじめに

2023 年は、北海道南西沖地震（1993.07.12）から 30 年、関東大震災（1923.09.01）から 100 年、そして知内町小谷石豪雨災害（1973.09.24）から 50 年、という節目の年となっています。

このうち、小谷石豪雨災害は、当時の自動記録雨量計では時間雨量 133mm を記録した大規模な土石流災害で、死者・行方不明者 7 名、全壊 99 戸、半壊 24 戸という、谷間の狭隘な集落にとって壊滅的な被害となりました。

また、この災害では、全戸数 248 戸の約 50%に当たる全半壊 123 戸のうち、4 戸を除く地区住民が、中ノ沢の高台にある矢越小学校に避難しているとのこと。こうした避難の背景には、真昼の大雨であったことのほか、小谷石地区の消防団、消防署や警察の方々の警戒行動とともに、地区住民の多くの方々の的確な避難行動にあると思われます。



小谷石豪雨災害（町災害記録誌「こたにいし」より複写）



小谷石豪雨災害（郷土資料館パネル展より複写）

一方、2021 年 11 月 2 日には、知内町の隣町の木古内町において、道内での観測史上最多の 1 時間雨量 136.5mm の大雨を記録し、知内町でも同日、午後 11 時 50 分までの 24 時間雨量 190.5mm（木古内町では 221mm）の大雨がありました。

このような極端な気象現象が頻発化している近年の情勢に鑑み、小谷石災害の教訓を後世に伝えるとともに、地域防災力の向上を図る必要があると考え、知内町、知内町郷土資料館、国土防災技術北海道(株)が共催で、『昭和 48 年 9 月知内町小谷石災害から 50 年「大雨の時、どうする避難？ ワークショップ』を、2023 年 9 月 8 日、9 日の両日、知内町内 2 箇所計 2 回開催しました。

## 2 「防災教育教材 EVAG（豪雨災害編）」について

EVAG (Evacuation (避難) Activity (行動) Games (ゲーム)) は、当社のグループ会社である国土防災技術(株)が開発した防災教育教材です。確かな情報を見極め、自分で優先順位を判断し、行動できる自立した人を育てることと、さらに、自助、共助への気づきを促すことをねらいとしたものです。

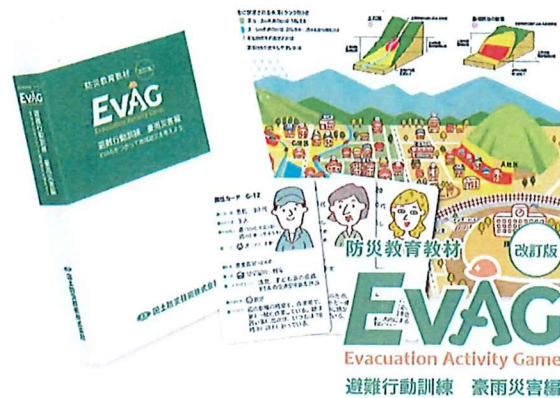
具体的には、この教材を用いて、①ロールプレイ（自分と異なる属性（例：80 歳男性一人暮らし、10 歳女性右腕骨折、等）をしながら、②豪雨による災害リスクが高まる中で、疑似避難行動訓練（シミュレーション）を体験し、③グループディスカッションを行い、課題について考察する、というワークショップを行っています。

知内町でのワークショップでは、知内町坂井映滋防災専門員が「避難を疑似体験することで、避難行動や住民目線での

地域の課題など、様々な気づきを得ることを目的に開催しました。」旨の挨拶を行い、小谷石豪雨災害の振り返りを行いました。

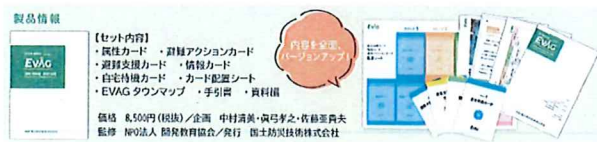
EVAG のファシリテーターは、当社グループ会社の国土防災技術(株)の大沼乃里子氏が担当し、避難所案内係は知内町郷土資料館の竹田聡学芸員と当社の木戸口和裕が担当しました。避難所には、「指定避難所」「自主避難先」「近隣の建物」の3種類の席を設けています。

シミュレーションゲームを通じて避難を考えよう



2022年3月 改訂版リリース！

2015年に製品化され、地域や学校、職場等の様々な場面で地域防災力向上を目的に活用されてきた「避難行動訓練 EVAG (イーバグ、Evacuation Activity Gameの略)」が、改訂版としてバージョンアップしました。今回の改訂では、2021年5月の災害対策基本法の改正内容を反映することと、これまでEVAGを体験した皆さまからのご要望にお応えすることを目的としました。EVAGを体験した皆さまの防災意識の向上だけでなく、その後の具体的な取り組みの促進など地域における災害対策の検討にお役に立ててください。



EVAG パンフレット表紙

### 3 第1回ワークショップ

- ① 日時 2023年9月8日(金) 15:00~17:10
- ② 場所 知内町中央公民館：知内町字重内 21-1
- ③ 参加者 知内町各町内会長等、計 15 名
- ④ ワークショップの参加者の主な感想

- ・学校教育、社会教育などの防災教室で、避難行動訓練は必要である。
- ・災害時の避難は頭がいたい課題である。
- ・もっと時間をかけてやりたかった。 など

ワークショップ会場となった中央公民館は、知内川左岸の役場近くにあり、その2階以上は「指定避難場所（自宅が被災した時などに避難生活を送る場所）」となっています。

ロールプレイは、現在の自分とは違って、骨折をしている人、後期高齢者、子供、外国人など、災害弱者となりうる人の視点に立った避難の疑似体験をすることができます。ロールプレイに戸惑いを感じる方は、現在の自分の立場で考え

ていただいても結構で、まずは、疑似体験することが大事です。

グループディスカッションの中では、ペットの取り扱いや「公助」への期待などに関する発言もあり、課題が浮き彫りになりました。



第1回ワークショップ 2023.09.08

#### 4 第2回ワークショップ

① 日時 2023年9月9日(土) 9:30~11:40

② 場所 矢越山荘：知内町字小谷石 514 番地

③ 参加者 「ミュージアム・パル」会員、「知内学のすすめ」会員、一般町民、計10名

④ワークショップの参加者の主な感想

- ・町内会活動で、指定避難場所の状況確認や要支援者等の対応で、避難行動訓練は必要である。
- ・とても良い経験をしました。これまで(避難について)深く考えなかったかも知れません。
- ・あらためて避難用の物を一カ所にまとめ、家族と共有することが大事。 など

ワークショップ会場となった矢越山荘は、小谷石地区の中ノ沢の高台にあり、災害当時、住民の避難場所となった矢越小学校の跡地に建っています。平成12年に廃校した矢越小学校の面影を残す木造平屋建てで、地元のスギ材をふんだんに使用した地域活性化施設で、「指定緊急避難場所(危機が切迫した時に逃げる避難場所)」兼「指定避難場所」でもあります。ここで当該ワークショップを開催する意義は非常に大きいと思われました。



矢越山荘 2023.09.09



第2回ワークショップ 2023.09.09

グループディスカッションの中で、参加者から「知内川は氾濫したことがないので、大雨が降っても大丈夫。」といった発言がありました。近年の想定外の洪水被害が全国各地で頻発化している中で、過去に大きな災害があった地域であっ

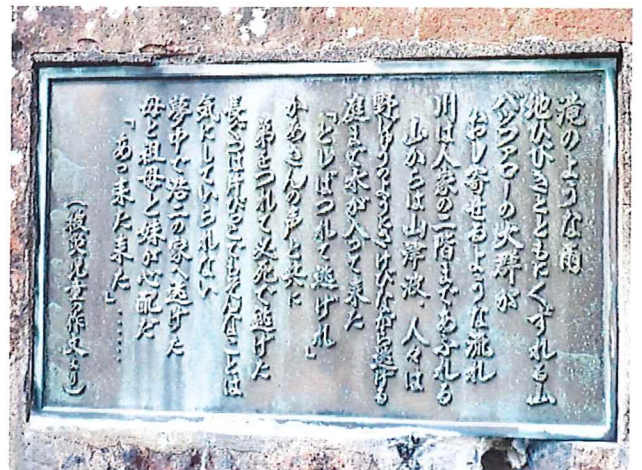
ても、或いは、ハザードマップを公表していても、地域での危機感の共有の難しさを感じると同時に、だからこそ、このようなワークショップの開催に意義がある、との思いを強くしました。

## 5 終わりに

小谷石地区には、小谷石豪雨災害から3年後の1976年に「復興記念碑」が建立されています。その碑には、災害当時の中ノ沢から流れて来た自然石が使用され、碑の背面には、被災児童の作文が掲示されています。その全文は以下のとおりです。



復興記念碑（表）



復興記念碑（裏）碑文

『滝のような雨  
地ひびきとともにくずれる山  
バッファローの大群が  
おしよせるような流れ  
川は人家の二階まであふれる  
山からは山津波、人々は  
野じゅうのようにさけびながら逃げる  
庭まで水が入って来た  
「としばつれて逃げれ」  
かあさんの声と共に  
弟をつれて必死で逃げた  
長靴は片びっこでもそんなことは  
気にしてられない  
夢中で浩二の家へ逃げた  
母と祖母と妹が心配だ  
「あっ来た来た」……』

この記念碑は、災害からの地域の復興を示すとともに、災害当時の切迫した状況を生々しく綴った被災児童の作文を通して、避難行動の大切さを伝えています。

この復興記念碑とともに、今回行いましたEVAGによる避難行動訓練ワークショップが、地域での「どうする、避難？」の議論が絶えず行われる契機となることを願っています。